

事例を通した教育相談の進め方に関する研究
開発的な指導援助の在り方
(第2年次)

教育相談部

本研究は、児童生徒の将来の向上のために、児童生徒の持っている可能性を認識させ、その能力を発揮できるように指導援助するための「開発的な指導援助の在り方」を3年計画で追究するものである。

本年度は、第1年次の研究で明らかにした開発的な指導援助の6つの要点と基本的対応に基づき、実践を通して具体的な内容・方法の在り方について研究を進めた。

研究内容

(1) 開発的な指導援助の6つの要点について、児童生徒の意識調査(事前調査)を実施し、その結果を上位・中位・下位群に分けて学級の実態を分析した。そして、個々の児童生徒のプロフィールを作成し、指導援助の方向の設定や実践案を作成するための資料にした。

(2) 6つの要点の中から、「所属と愛情」では『力を合わせて長縄跳びの記録に挑戦』『心を合わせてリレー・マラソン42,195 km』、「自己理解」では『自分を知ろう』、「自尊」では『私にもあなたにも良いところがあるはずだ』、「将来への向上」では『人生の先輩に学ぼう』というテーマで実践案を提示した。

(3) 指導援助の実践は、研究協力校の累積した観察、面接の記録や、それぞれの要点に関する児童生徒の意識調査(事前調査)から、個人のプロフィールや学級の実態を把握し、実態に応じたテーマを決めて実践案に基づいて実施した。

実施後、作文、日記やそれぞれの要点に関する児童生徒の意識調査(事後調査)の結果から、個人のプロフィールの変容、学級の変容を分析し、実践内容・方法の効果を調査した。

(4) 各実践事例ごとに、開発的な指導援助の内容・方法の効果をみると、特に中位・下位群に大きな変容がみられた。このことから、それぞれの要点をもとに実践したテーマの内容・方法が、開発的な指導援助として効果があることが分かった。

第3年次は、第2年次での研究をもとに、様々な学習活動場面での計画実践案を作成し、その実践案に基づいて研究協力校で実践を深め、開発的な指導援助の在り方についてまとめる予定である。